

浅間隠山

30日

この山には2016年11月にも登っている。200名山の山であるということと、その月の後半にヒマラヤのゼム氷河に行ったので、軽い山としてこの山を選んだのであろう。そんなことはすっかり忘れてしまってツアーに申し込んで、後になって気が付いた。最近こんなことが多い。

ツアーリーダーは長老の花岡さん、サブは知床の流氷ツアーなどでお世話になった関根のバアサマ。ジジイが6名、ババアが7名の合計13名だ。前はこんなところでもバテテル人が複数いたが、今回は休みの時にへたり込んでいるジイサマが一人いた程度である。花岡さんに浅間隠山の名前の由来を聞いたら、吾妻部落から見るとこの山のおかげで浅間山が隠れてしまうので、村人はこの山に登って



て浅間山を見たのだという。だから山頂にはこの山の方向に向けて祠が備えられている。それだけ崇められていたのだという。ネットでこの山の名の由来を調べたがそんなことは出ていなかった。さすが花岡ジイサン。別の角度の村では矢筈山と呼んでいるところもあるみたいだ。2002年にパプアニューギニアのウイルヘルム山のツアーに行ったときに深田会のメンバーであり、200名山の作成にもかかわったという中谷寶一郎さんと同室になったことがある。この人は「山の記憶」という著作もある人で、深田久弥もそうであるように山の由来や地元の人にいかにか愛されているかということを実によく調べていた。私のように登った山でもすっかり忘れてしまっているような人間とはまるで違う。



吾妻部落方面